

知床国立公園利用のあり方に関する懇談会経過報告

平成 30 年 2 月 19 日
釧路自然環境事務所

1. 懇談会主旨

先端部地区の適正な利用について定めた「先端部地区利用の心得」については、利用状況の変化等を踏まえ、平成 29 年 3 月に改訂を行ったところであるが、その議論の過程において、既存のルールや利用のあり方に関する議論等を求める様々な意見が出された。また、平成 28 年度第 2 回適正利用・エコツーリズム検討会議では、今後 5 年間を目途に、地域の意見や利用状況・ニーズ等を踏まえた利用のあり方について、既存ルールの見直しを含めた検討を進めていくこととなった。

このような状況から、平成 29 年度より、知床国立公園の利用のあり方について地域関係者間で意見交換・議論を行うための懇談会を開催することとした。

2. 平成 29 年度の開催結果及び予定

○第 1 回：平成 29 年 9 月 19 日（火）18:00-19:30 羅臼町商工会館

行政機関から現行の法律やルールについて説明し、知床半島先端部地区利用の心得点検部会の意見の振り返りを行った後、議論を行った。

初めに「無制限の利用ではなく何らかのルールが必要である。」ということを通識として確認した。また、はじめから知床半島全体の話をするのは難しいため、まずは利用のあり方検討の中心となる先端部地区の利用について議論を進めていくこととなった。その他に適正利用検討会議での提案はハードルが高すぎる、利用形態が違う両町では別々で話し合う場を設けるべきという意見があった一方、計画や全体に関しては一緒に議論することが必要との意見も出た。

以上を踏まえ、第 2 回懇談会では知床財団がまとめ役となり、両町それぞれで検討した今後の知床半島先端部の保全と利用案を持ち寄って議論することとなった。

○第 2 回：平成 29 年 12 月 18 日（月）14:00-16:00 斜里町産業会館

第 1 回懇談会の振り返りを行った後、両町で検討した利用案を発表し、議論を行った。

羅臼側は関係機関に聞き取りを行ったうえで、先端部の海岸線利用に絞り、トレッカーの片道動力船利用のシステムを提案した。一方、斜里側は関係機関への聞き取りで具体的な案が出なかったため、知床財団案として相泊-モイレウシ間のシャトル船を利用した入域規制のシステムを提案した。

議論では、先端部への動力船利用をトレッカーが望んでいるかアンケートすべきという意見や、先端部の具体的なシステムだけでなくもっと知床半島全体の利用のあり方の大枠を話し合うべきであるという意見があった。

今回、斜里側は関係機関での意見の取りまとめが不十分であったため、次回の懇談会までに斜里側での意見をまとめることとなった。第 3 回懇談会では、再度両町の提案を合わせて、大枠の利用のあり方を考えながら議論することとなった。

○第 3 回：平成 30 年 3 月 1 日（木）15:30-17:30 羅臼町商工会館

3. 平成 30 年度以降の予定

平成 30 年度は引き続き懇談会を開催し、地元意見の集約を行う。平成 31 年度以降、聴取した地元意見を踏まえ、利用のルール（知床国立公園管理計画書、利用の心得など）の内容更新及び再編を検討する予定。